結石ト水腫ヲ有セル原發性腎臟癌ノ 1 例

千葉醫科大學皮膚泌尿器科教室 (主任 佐藤教授)

竹 内 勝
王 烈

*Aus der Dermato- Urologischen Klinik der Medizinischen Universität zu Chiba.
(Direktor: Prof. K. Sato.)*

Ein Fall von primärem Nierencarcinom mit Nieransteinen und Hydronephrose.

Von

Dr. Katsu Takenouchi und Dr. Lieh Wang.

Patient K. S. 51jähr. Mann. Er bemerkte seit Mai 1934 allgemeine Mattigkeit, Abmagerung und Hämaturie. Seit 10. VII. trat Vergrößerung der linken Bauchhälfte auf, die am 20. VII. eine enorme Grösse erreichte.

Mittels urologischer und Röntgenuntersuchungen diagnostizierten wir Nierenstein mit Hydronephrose. Durch Probeoperation erhielten wir 1000ccm blutiger serösen Harn und 18 Steine (1 Korallenstein und viele erbsen- bis bohnergrosse Steine). Er starb am 18. Tage nach der Operation und es wurde lokale Obduktion ausgeführt.

Sektionsbefund.- Niere: Grösse $18 \times 10 \times 8$ cm, Gewicht 450g (nach Entleerung von 2000ccm wässrigen Inhalts).

Die Nierensubstanz war fast vollständig verschwunden und im Nierenbecken fanden wir 51 (17g) erbsen- bis daumenspitzzgrosse Steine und 24,5g Nierensand.

Die Höhlen der Hydronephrose wurden fast alle mit hervorgewachsenen Tumor massen gefüllt, welche sich histologisch als Plattenepitheliom erwiesen.

Wir glauben, dass bei der Entwicklung dieses Nierencarcinoms chronischer Reiz durch Nierensteine und Druck bei Hydronephrose die Hauptrolle gespielt haben.

目

次

I 緒 言

II 實 驗 例

1. 既 往 症

2. 入 院 時 所 見

3. 檢 査 成 績 (i) 尿, (ii) 膀胱鏡所見, (iii) 「レントゲン單純撮影」,

(iv) 「ビエログラム」, (v) 血像,

(iv) 赤血球沈降速度

4. 手 術 所 見

5. 手 術 後 ノ 經 過

6. 局 所 解 剖 所 見 (i) 左 腎 肉 眼 的 所 見, (ii) 組 織 學 的 所 見

III 文 献 並 に 考 按

1. 腎臓結石ニ就テ
2. 腎臓水腫ニ就テ

3. 腎臓腫瘍ニ就テ

IV 結 論
参 考 文 献

本稿ノ内容ハ昭和9年12月千葉醫學會例會ニ於テ報告セルモノナリ。

I 結 言

結石ニ基ク腎臓水腫ハ日常見ラルル所ナルモ結石數並ニ水腫ノ容量巨大ニシテ加之手術ニヨリテ癌腫ヲ併發セルヲ知り死後局所解剖ヲ試ミ原發性腎臓癌ナラント思ハルル症例ナリ。

II 實 驗 例

患 者 庄司某男 51歳。農業 初診昭和9年7月31日。

1. 既往症及ビ家族歴 記述スベキコトナク、既往歴ニハ青年時代ヨリ常ニ嘔吐ヲ訴ヘ胃薬ニ親シミ時々痼痛發作ヲ見タルコトアルモ血尿又ハ尿管斷絶等ヲ認メシコトナシ。又結核性疾患ヲ患ヒシコトナシ。

現病歴 昭和9年5月上旬ヨリ全身倦怠、惡心、食思不振ヲ認メシモ、發熱疼痛ナキニヨリ持病ノ胃腸障害ト思ヒ放置セリ。然ルニ5月下旬ニ到リテ4乃至4日目毎ニ血尿ヲ認メシガ疼痛ナク且ツ自然ニ再ビ清澄ナル尿ニ還ルニヨリ何等醫療ヲ受ケズ唯安靜ヲ保テリ。7月10日頃ヨリ特別ナル原因ナクシテ左側腹部急ニ腫脹シ約10日後ニハ左腹全部ヲ占ムル大腫瘍トナリ益々食思不振、全身倦怠感ヲ加ヘ瘦削甚シクナリ來リシニヨリ始メテ醫師ヲ訪ヒ昭和9年7月31日我教室ニ入院セリ。

2. 入院時所見 全身狀態ハ前述ノ如ク瘦削甚シキモ發熱ナク胸部著變ナシ。脈搏90。

局所所見 左腹全部ヲ占ムル大腫瘍ヲ認ム。即チ心窩部ヨリ下リテ臍窩ノ右方2横指ヲ過ギ恥骨縫際ノ上方約2横指ノ部ヨリ左腸骨嚢ニ沿ヒテ左側腹部ヨリ左肋骨弓ノ下方ニ入ル。觸診スルニ本腫瘍ハ前回ハ兒頭様圓形ニシテ且ツ凸凹多ク側腹部ニテハ波動ヲ認ムルモ背面ハ平滑ニシテ板ノ如ク呼吸ト共ニ良ク動キ皮膚ト癒着ナク、又兩手掌内ノ「ブランコ」運動ハ認メ難ク何處ニモ壓痛ヲ訴ヘズ。鼠蹊部及ビ其ノ他ノ淋巴腺ニ腫脹ヲ認メザリキ。(Fig. 1)

Fig. 1.

3. 検査成績 i) 尿 蛋白中等度陽性ニシテ沈渣中ニハ多數ノ赤血球アルモ細菌及ビ圓錐ヲ見ズ。

ii) 膀胱鏡所見 膀胱左上極及ビ右輸尿管ノ後上方ニ拇指頭大ノ絨様ノ血塊アリテ出血甚シ。左輸尿管口ハ線狀ニ閉鎖シ尿流ヲ認メズ。又輸尿管「カテーテル」ヲ20厘米挿入スルモ尿ヲ得ズ。右側輸尿管口ヨリハ清澄ナル尿流ヲ認メ「カテーテル」尿ノ沈渣ニハ變化ナシ。

iii) 「レントゲン単純撮影」 腫瘍部ハ一般ニ模糊タルモソノ内ニ拇指頭大ノ珊瑚様ノモノ及ビ米粒大ノ30個ノ明瞭ナル小結石像ヲ認ム。

iv) 「ピエログラム」 經輸尿管性「ピエログラム」右側ハ尋常ナルモ左側ハ多數ノ結石ト高度ナル腎臓水腫アルヲ知ル。(Fig. 2)

Fig. 2.

經靜脈性「ピエログラム」更ニ「スギウロン」ニヨリ經靜脈性「ピエログラフイー」ヲ實施シタルニ右腎ハ注射後5分ニシテ既ニ排泄ヲ認メ腎盂ノ形態變化ナキモ左腎ハ30分後ニ到ルモ造影劑ノ陰影モナク唯多數ノ結石像ヲ得タルノミ。ヨツテ余等ハ左腎結石ニ基ク腎臓水腫ナリト診斷セリ。

v) 血 像 赤血球數570萬, 白血球數9900, 血色素指數0.71, 白血球種類ハ中性多核白血球78.5%, 淋巴球18%, 「エオジン」嗜好性細胞2%, 移行型及ビ大單核白血球1.5%ナリ。即チ白血球數稍々多ク中性多核白血球ノ著明ノ増加ヲ見タリ。

vi) 赤血球沈降速度 (ウエスター・グレーン氏法) 中等價常ニ70~100耗ヲ數ヘ高度ノ増加ヲ認メタリ。

4. 手術所見 經靜脈性「ピエログラフイー」實施後急ニ發熱39°Cニ及ビ嘔吐相次ギ全身狀態急迫セルニヨリ腎切開ヲ試ミタリ。8月4日黒田助教授

執刀ノ下ニ左側腹部ニ「ベルクマン」氏法ニヨリ皮膚切開ヲナシ、皮下脂肪及ビ筋肉ハ高度ニ萎縮セルタメ直ニ腹膜外ニアル腫瘍ニ到達シタリ。試験穿刺ニヨリ血液様ノ尿臭アル液ヲ得タレバ腎外側中央部ニ小切開ヲ加ヘ水腫1立ヲ得タリ。(培養、染色共ニ細菌ヲ認メズ)。其後尿石鉗子ニヨリ輸尿管中ニ堅ク嵌入セル小ナル珊瑚様結石1個及ビ拇指頭大ヨリ粟粒大ニ到ル18個ノ結石並ニ多量ノ腎砂ヲ得テ排膿管ヲ挿入シ手術ヲ終ル。

5. 手術後ノ經過 手術後ハ一時無熱トナリ腹部腫瘍モ僅カニ縮小セルモ尙左腹ノ過半ヲ占ム。而シテ吃逆連發シ嘔吐加リ次第ニ衰弱ヲ増シ肺炎ヲ併發シテ(肺炎菌陽性)手術後18日目ニ死亡セリ。

6. 局所解剖所見 極力全身ノ病理解剖ヲ薦メシモ肯ゼザルニヨリ局所解剖ニ留メタリ。左腎ハ腹膜ニハ癒着ナキモ腎門部ヨリ脾臓及ビ大靜脈幹ニ固ク癒着シ鈍性ニハ剝離シ得ズ。而シテ其ノ上極及ビ下極ニ尙各々1立ノ稍血液様色調アル液體ヲ有セル2室アリ。此ノ内容ヲ穿刺シタル後剔出セル腎臓ハ18×10×8釐ニシテ重量ハ450瓦ナリ。他ニ觸診シ得ル胃腸及ビ他側ノ腎臓ニハ腫瘍様ノ變化

Fig. 3.

ヲ認メザリキ。

i) 左側腎臓肉眼の所見 表面凹凸不平ニシテ觸診スルニ硬シ。被膜ハ輕キ纖維性癒着ヲ認ム。截面ハ腎實質紙様ニ薄ナリテ大小種々ノ多數ノ空洞ヲ形成シ其ノ内部ハ或ハ灰白色ノ絨毛様或ハ黃灰白球狀ノ孤立セル腫瘍ニ滿タサレ之等ハ主トシテ腎盂ヨリ發生シテ増大セリ。(Fig. 3) 尙ホ腎盂, 腎盞腎實質中ニ黑色ニシテ光澤アル硬キ蠶豆大ヨリ砂狀ノ結石無數ニ存在ス。(Fig. 4) 其ノ

Fig. 4.

大サ, 數及ビ重量ハ第1表ノ如シ。

第 1 表

結 石 ノ 大 サ	數	重 量
蠶豆大ヨリ扁豆大	51個	7瓦
器 粟 粒 大	2895個	13瓦
砂 狀	數ヘ得ズ	11.5瓦
計	2946個以上	31.5瓦

ii) 組織學的所見 (1) 肉眼のニハ乳嘴腫ニシテ皮質ト被膜トノ間ニ囊腫様ノ空腔ヲ隔テテ腎盂及ビ腎髓質ノ方ヨリ突出セル腫瘍ノ切片ナリ。全ク健康腎組織ヲ認メズ(Fig. 5)。腫瘍細胞ハ纖維腫様ノ細胞ヲ交ヘテ乳嘴様ニ増殖シ所々ニ壊死竈ヲ其間ニ認ム(Fig. 6)。腫瘍細胞ハ比較的ニ透明水泡様圓形ニシテ所々ニ核分裂像ヲ認メ且大小不同ニシテ其惡性ナルヲ知ル。典型的ノ眞珠腫ヲ見ザルモ點在性ニ石灰ノ沈着ヲ見ル(Fig. 7)。血管ノ分布割合ニ少ナク壊死竈ノ發生ノ容易ナルヲ

Fig. 5.

Fig. 6.

Fig. 7.

想ハシム。彈力纖維ハ全面ニ僅小ナルモ存在ス。

(2) 腎被膜ノ直下ノ皮質ノ部ニシテ其内側ハ大ナル囊腫ヲ形成シ、皮質ニ壓迫大ナリシ部ナリ。腎絲絨體ハ多數原型ヲ保ツモ一部ハ硝子様變化ヲ來セリ。(Fig. 8) 組織間隙ハ纖維性細胞ノ増殖ヲ來シ細尿管ノ上皮ハ多クハ萎縮シ管腔ハ擴大シ所ニヨリ淋巴細胞ノ小浸潤ヲ見タリ。視野ノ一部ニハ結締織ニ包マレ「エオジン」ニ薄ク染ル壞死竈ノ乳嘴腫様ノ癌細胞群ヲ認ム。此壞死竈中ニモ眞珠腫様ノ石灰沈着竈ヲ多數ニ存ス。

(3) 被膜下ノ囊腫ニ對シ乳嘴様ノ腫瘍ト同様ノ位置ニ圓ク突出セル拇指頭大ノ腫瘍ノ切片ナリ。彈力纖維特ニ厚ク血管多ク壞死部ハ他ノ部位ニ比シ稍少シ。腫瘍細胞ノ所見ハ前述ト同ジ。

Fig. 8.

III 文献並ビニ考按

1. 腎結石ニ就テ 本邦ニ於テ腎結石ニ關シ詳細ナル統計的觀察ヲナセルモノ阿久津氏¹⁾

Fig. 9.

(26例), 鳥井氏²⁾ (57例), 藤原氏³⁾ (39例), 宮澤氏⁴⁾ (168例) 及ビ村上・小川氏⁵⁾ (30例) 等アリテ其一般の症狀ニ關シ詳細ナル記述アリ。然レドモ結石數ニ關スル記述ヲナセルモノ少ク僅カニ村上氏⁶⁾ 300瓦ノ大結石ト共ニ粟粒大又ハ小豆大ノ小結石1200個ヲ認メタルヲ最大トシ藤浪氏⁷⁾ ノ316個ヲ除ケバ梅津氏⁸⁾ 30個, 村上・小川氏⁹⁾ 20個, 坂本氏18個, 坂上氏¹⁰⁾ 及ビ遠藤氏ノ10個等アルノミニシテ10個以上ノ記載ハ寥々タリ。余等ノ症例ニ於テハ前述ノ如ク結石ト稱スベキモノ51個アリ, 其他ニ罌粟粒大以下ノ腎砂非常ニ多量ニ存シタリ。

腎砂ノ報告ハ高橋, 市川, 小林¹²⁾¹³⁾¹⁴⁾ 氏, 村上・小川氏⁵⁾ 徳田氏¹⁶⁾ (抄録ナシ) 及ビ並木氏¹⁷⁾ 等アルモ余等ノ症例ノ如ク甚ダ多量ニシテ腎盂ハ全ク砂中ニ埋

没セシ如キモノナシ。

結石重量10瓦ヲ越ユルモノ僅カニ村上氏⁶⁾(300瓦), 關氏²³⁾(157瓦), 坂上氏²¹⁾(110瓦), 中牟田氏³⁰⁾(48瓦), 坂上氏²¹⁾(17瓦), 丸山氏¹³⁾(11瓦) 及ビ北川氏(10瓦)等アルノミ。本症例ハ結石重量31.5瓦ナリシモ別出標本ノ「レントゲン」寫眞ヲ撮影シ尙ホ多數ノ結石腎實質中ニ殘存セルヲ證明セリ。(Fig. 9)

2. 腎臓水腫ニ就テ 次ギニ本邦ニテ腎臓水腫ノ容量ニ關シテ永井氏詳細ニ記述セルモノ之ニ洩レシモノ及ビ其ノ後ノ増告ヲ併セテ表示スレバ第2表ノ如シ。

第 2 表

番號	報告者	報告年度	患者 年齢	性	原 因	容 量 (克)
1	宮 田 ²⁴⁾	1912	42	男	癌ニ變化	2000
2	大 島 ²⁵⁾	1918	35	男	結 石	3800
3	岸 ²³⁾	1919	36	男	結 石	7000
4	朝 倉 ²³⁾ ²⁵⁾	1919	47	男	不 明	3000
5	穂 積 ²³⁾ ²⁶⁾	1922	20	男	結 石	9000
6	杉村, 濱田 ²³⁾	1923	58	女	結 石	1200
7	池 田 ²⁷⁾	1922	21	男	不 明	6000
8	都 谷 枝 ²³⁾	1927	33	男	先天的ニテシ且 ツ外傷ヲ受ケ	2300
9	皆 見 ²⁵⁾ ²⁹⁾	1929	23	男	輸尿管壓迫	29300
10	高 橋 ³⁰⁾	1933	53	男	不 明	12000
11	高 橋 ³⁰⁾	1933	5	男	不 明	3000
12	野口, 三浦 ³¹⁾	1934	18	男	先 天 的 ?	5700
13	永 井 ²³⁾	1934	27	男	ア ト ニ	25000
14	緒 方 ³²⁾	1934	23	男	不 明	3030
15	著 者	1934	51	男	結石アリ。癌 ニ變性	3000

余等ノ症例ヲ水腫ハ3立ニ達シ

タルモ本邦文献例ハ1立ヲ越ユルモノ僅カニ14例ニ過ギザルハ恐ラク報告セラレザル症例モ可成リ存スルモノト想ハル。

腎臓水腫ガ如何ナル病理學的變化ニヨリテ發生スルカハLichtenberg 氏ハ猶ホ定説ナシト言フモ新藤氏³³⁾ハ文献例200例ノ病因明瞭ナルモノヨリ異常血管ニヨルモノ28%, 腎及ビ輸尿管ノ位置異常15%, 同部ノ結石10%, 輸尿管ノ炎

症性癒着9%, 外傷8%, 遊走腎6%等ヲ得タリ。北川・宮内³⁴⁾氏ハ腎動脈ノ異常位置及ビ過剰ナルヲ本邦文献972例中ニ21.6%, 外國文献2580例中22.6%ヲ算出セリ。余等ノ例ニ於テハ異常血管無ク輸尿管ノ走行モ著變ナク結石ノ併入ニ基ク腎臓水腫ナルベシト思ハル。

3. 腎臓腫瘍ニ就テ 腎臓腫瘍ノ統計的觀察ハ中川・大道³⁵⁾氏等自家實驗例11例ト共ニ本邦症例ヲ總括シ結論ニ(1)本腫瘍ノ頻度ハ一般臓器腫瘍ノ0.8%ヲ占メ, (2)年齢ハ50歳前後ニ多ク, (3)男子ニ多ク, (4)左右側同様ニ發生シ兩側ニ來ルコト尠ク, (5)病理學的診斷ハGrawitz 氏腫瘍多ク肉腫又ハ癌腫ハ尠シト言ヘリ。余等ガ集メ得タル本邦症例ノ病理學的診斷ハ第3表ノ如ク, 中川氏等ニ比シGrawitz 氏腫瘍及ビ混合腫瘍稍減少シ癌腫増カセリ。

原因の關係ノ明確ナリシハ余等ノ集メ得

第 3 表

報告者 種類	中川・大道 ³⁵⁾		著者 ³⁵⁻¹⁰⁷⁾
	外國文献例 2049例	本邦文献例 73例	本邦文献例 121例
癌 腫	26.2%	9.6%	14.8%
Grawitz 氏 腫 瘍	47.7%	68.5%	50.4%
肉 腫	18.1%	2.7%	5.7%
混 合 腫 瘍	4.7%	12.3%	8.2%
其 他	4.3%	6.9%	腺腫 4.1% 腎盂輸尿管 ルロピロー チ 4.1% 不明 6.6%

タル121例中僅カニ中川・大道氏³⁵⁾等ノ(第11例)腎臟水腫ノ後ニ發生セルモノ、阿久津・宮澤氏⁸⁵⁾等ガ特發性腎出血アリシ後3年ニシテ腎腺腫ニ變ゼルモノ及ビ宮田氏⁶⁴⁾ノ腎臟水腫ヨリ變性セル上皮癌等アルノミナリ。外國文献ニハOraison¹⁰⁸⁾, Pellard¹⁰⁹⁾, Thororton¹⁰⁸⁾, Knowsley¹⁰⁸⁾, Mac Comac¹⁰⁸⁾, Walsham¹⁰⁸⁾氏等ハ腎盂ニ結石ノ併發セルヲ認メ恐ラクハ癌發生ノ原因タルベシト言ヒ、Wells¹⁰⁰⁾氏及ビLubarsch Henke¹¹⁰⁾氏等ハ余等ノ症例ト同様ニ結石ニ基キ原發性扁平上皮細胞癌ヲ形成セルヲ見タリ。

余等ノ例ハ青年時代ヨリ反復セル疝痛發作ハ結石ノ刺戟症狀ナルベク一方ニハ珊瑚様結石ヲ形成シ輸尿管口ニ箝入シ高度ナル腎臟水腫ヲ形成シ腎上皮ヲ壓迫シ、他方ニハ病理組織學的處見ニ詳述セル如キ腎上皮各所ニ石灰沈着ヲ來シ更ニ石灰ハ異物トシテ腎上皮ニ慢性ノ刺戟ヲ與ヘタリ。此兩刺戟ニヨリ腎上間ニ非定型的ナルモ扁平上皮細胞癌ニ變性シ急ニ惡液質ヲ來シ臨床的症狀ヲ具ヘ來リシニ非ザルカ。余等ハ本症例モ山極・市川兩氏ノ刺戟說ニ賛スル好症例ナラント信ズ。

IV 結 論

1. 余等ハ51歳ノ男子ニ腎臟結石、腎臟水腫及ビ原發性腎臟癌ヲ併發セルモノヲ見タリ。
2. 而シテ其ノ結石數ハ大サ種々ナルモ3000個ヲ數ヘ且ツ多量ノ腎砂ヲ有シ、腎臟水腫ハ3立ノ内容ヲ有セル稀有ナル症例ナリ。
3. 腎臟癌ハ腎結石並ビニ腎臟水腫ニヨル慢性ノ刺戟ニ由リ發生セルモノナリト信ズ。

摘筆ニ際シ佐藤教授ノ校閲並ニ病理學教室佐藤博士ノ助言ニ深謝ノ意ヲ表ス。

參 考 文 獻

- (A) 腎結石ニ關スル引用文献 1) 阿久津: 日泌尿會誌, 第2卷, 114頁。 2) 鳥井: 同上 第7卷, 185頁。 3) 藤原: 同上 第15卷, 69頁。 4) 宮澤: 同上 第18卷, 795頁。 5) 村上・小川: 同上 第21卷, 357頁。 6) 村上: 皮膚科圖說, 1928年, Tab. 46。 7) 藤瀨: 皮紀, 第24卷, 563頁。 8) 梅津: 日泌尿會誌, 第20卷, 56頁。 9) 板本: 皮尿誌, 第31卷, 1060頁。 10) 坂口: 日泌尿會誌, 第7卷, 168頁。 11) 遠藤: 同上 第23卷, 754頁。 12) 高橋: 皮尿誌, 第28卷, 57頁。 13) 市川: 同上 第28卷, 462頁。 14) 小林: 同上 第36卷, 596頁。 15) 上妻: 同上 第28卷, 237頁。 16) 徳田: 日泌尿會誌, 第19卷, 317頁。 17) 並木: 同上 第19卷, 317頁。 18) 北川: 同上 第23卷, 521頁。 19) 丸山: 同上 第21卷, 351頁。 20) 中牟田: 皮尿誌, 第26卷, 1102頁。 21) 坂上: 同上 第28卷, 457頁。 22) 關: 同上 第26卷, 271頁。
- (B) 腎臟水腫ニ關スル引用文献 23) 永井: 日泌尿會誌, 第23卷, 298頁。 24) 宮田: 皮尿誌, 第12卷, 74頁。 25) 朝倉: 日泌尿會誌, 第8卷, 108頁。 26) 穗積: 同上 第23卷, 679頁。 27) 池田: 皮尿誌, 第21卷, 170頁。 28) 皆見: 同上 第29卷, 730頁。 29) 高橋: 同上 第34卷, 145頁。 30) 野口・三浦: 日泌尿會誌, 第23卷, 117頁。 31) 緒方: 日外函, 第11卷, 486頁。 32) 新藤: 日泌尿會誌 第20卷, 339頁。 33) 北川・宮内: 同上 第20卷, 594頁。
- (C) 腎腫瘍ニ關スル引用文献 (1) Grawitz氏腫瘍 35) 中川・大道: 日泌尿會誌, 第17卷, 423頁。 同上

489頁。 36) 樋口：同上 第3卷, 94頁。 37) 赤岩：同上 第4卷, 18頁。 38) 阿久津：同上 第4卷, 29頁。 39) 石原：同上 第5卷, 251頁。 40) 白井：同上 第11卷, 245頁。 41) 渡邊：同上 第11卷, 258頁。 同上 第22卷, 423頁。 42) 竹内：同上 第19卷, 541頁。 43) 高橋・丸田：同上 第21卷, 45頁。 44) 森川：同上 第21卷, 578頁。 同上 第21卷, 580頁。 45) 山之内：同上 第21卷, 596頁。 46) 石津・佐藤：同上 第22卷, 357頁。 47) 市川：同上 第22卷, 423頁。 48) 石津：同上 第23卷, 322頁。 49) 尾崎：同上 第23卷, 793頁。 50) 久保山：尿管誌, 第28卷, 237頁。 51) 井尻：同上 第28卷, 451頁。 52) 高橋：同上 第28卷, 559頁。 同上 第29卷, 189頁。 53) 稻本：同上 第35卷, 576頁。 54) 西村：尿管誌, 第18卷, 130頁。 55) 中尾・久保田：同上 第23卷, 187頁。

(2) 腎臓癌 56) 小山田：日泌尿會誌, 第10卷, 25頁, 同上 第11卷, 134頁。 57) 小野：同上 第11卷, 339頁。 58) 横尾：同上 第12卷, 145頁。 59) 中川：同上 第17卷, 489頁。 60) 五井：同上 第21卷, 68頁。 61) 石津・佐藤：同上 第22卷, 357頁。 62) 長谷川：同上 第23卷, 322頁。 63) 井上：尿管誌, 第12卷, 74頁。 64) 宮田：同上 第12卷, 74頁。 65) 小柴木：同上 第17卷, 9頁。 66) 泥谷：同上 第19卷, 151頁。 67) 井尻：同上 第28卷, 451頁。 68) 宮原：尿管誌, 第23卷, 186頁。

(3) 胎性混成腫瘍 69) 黒川：日泌尿會誌, 第10卷, 104頁。 70) 帖佐：同上 第14卷, 174頁。 71) 笹川：同上 第22卷, 157頁。 72) 松山：同上 第23卷, 386頁。 73) 沖田：同上 第23卷, 766頁。 74) 佐々木・富永：尿管誌, 第30卷, 262頁。

(4) 腎肉腫 75) 赤岩：日泌尿會誌, 第4卷, 18頁。 76) 武藤：同上 第4卷, 97頁。 77) 中山：同上 第7卷, 272頁。 78) 三木・岡本：同上 第23卷, 538頁。 79) 井尻：尿管誌, 第28卷, 451頁。 80) 皆見・藤原：同上 第28卷, 1048頁。 81) 稻本：同上 第35卷, 576頁。

(5) 腎腺腫 82) 小野：日泌尿會誌, 第11卷, 339頁。 83) 中川：同上 第17卷, 423頁。 84) 高橋：同上 第19卷, 530頁。 85) 阿久津・宮澤：同上 第22卷, 423頁。 86) 喜多：同上 第23卷, 186頁。 87) 喜多：同上 第23卷, 389頁。 88) 井尻：尿管誌, 第28卷, 451頁。

(6) 腎盂及ヒ輸尿管乳嘴腫 89) 中川：日泌尿會誌, 第17卷, 489頁。 90) 石津・佐藤：同上 第22卷, 357頁。 91) 星野：同上 第16卷, 59頁。 92) 高橋：尿管誌, 第28卷, 559頁。

(7) 其ノ他 93) 佐藤：尿管誌, 第4卷, 457頁。 94) 齋藤：日泌尿會誌, 第23卷, 789頁。 95) 川村：尿管誌, 第20卷, 167頁。 96) 赤岩：日泌尿會誌, 第4卷, 18頁。 97) 市川・岡野：同上 第23卷, 118頁。 98) 手島：同上 第23卷, 600頁。 99) 皆見・荒田：尿管誌, 第28卷, 319頁。 100) 永田：日泌尿會誌, 第20卷, 45頁。 101) 大島：同上 第22卷, 423頁。 102) 栗山：同上 第23卷, 322頁。 103) 村上：尿管誌, 第11卷, 618頁。 104) 中山：同上 第11卷, 618頁。 105) 渡邊：同上 第18卷, 265頁。 106) 小塚：同上 第28卷, 237頁。 107) 稻本：同上 第35卷, 576頁。

其ノ他 108) Oraison, Pellard, Thororton, Knowsly, Mac Comac, Walsham, G. Kapsammer: Nieren Chirurgie Bd. 2, S. 208. 109) Wells: 癌 第18年, 80頁, (大正13年) 110) Lubarsch & Henke: Hd. der Spez. Patholog. Anatomie und Histologie VI/2 (1934年版), 575頁。 111) Voelker & Wildbolz: Hd. der Urologie IV (1927年版) (Nephrolithiasis, Hydronephrose, Soliden Geschwülst der Nieren u. s. w)